

乗り合い商店

まちの隙間を結ぶ

小学校の閉校、団地の空き部屋、シャッター街。
まちの隙間がどんどん広がっていくことは、
まちを空虚なものにしていく。
空き地の適正利用と商業活動を立て直すことが
真駒内の課題である。

この課題に対して、コンパクトシティの唱える、
拠点をつくることによる再生だけでは
一過性の効果しか得られない。
隙間の出来たまちは、そこから脆く崩れていく。

まちの隙間を結んで、
住民たちの手により持続可能な、まちを循環する商店街を提案する。

「そこまで商店街に乗っていこう」



商店街

交通機関

商店街が動く、物が動く、人も動く



step1
・空きとなった団地
・閉校した小学校
・空き家、空きテナント
これらを整備しつなげる

それぞれのドックごとに
食事の空間・娯楽の空間・生活の空間
などの性格分けがある。

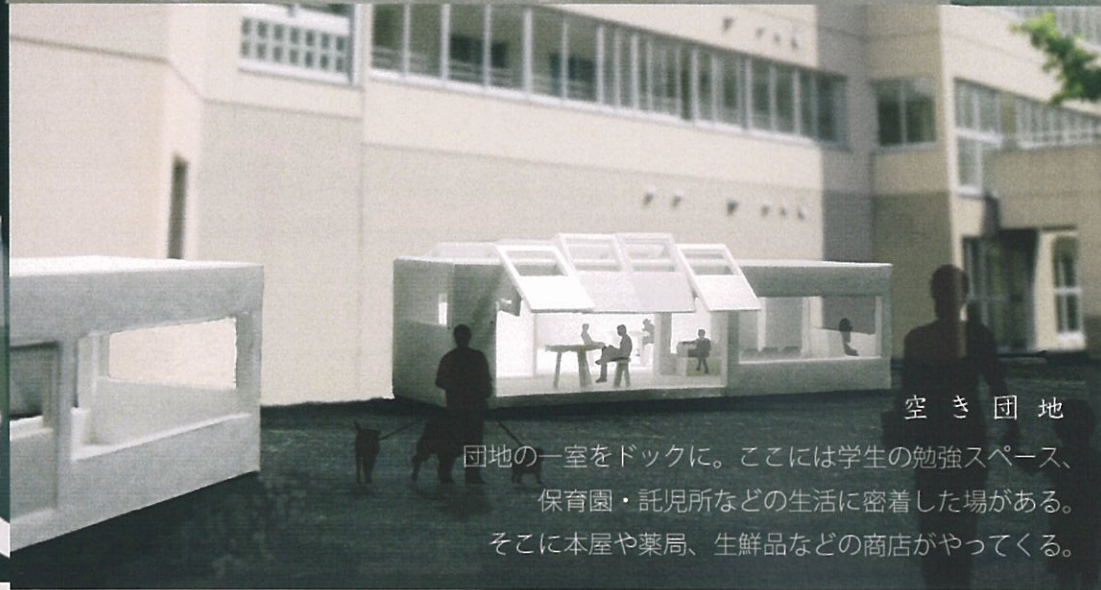
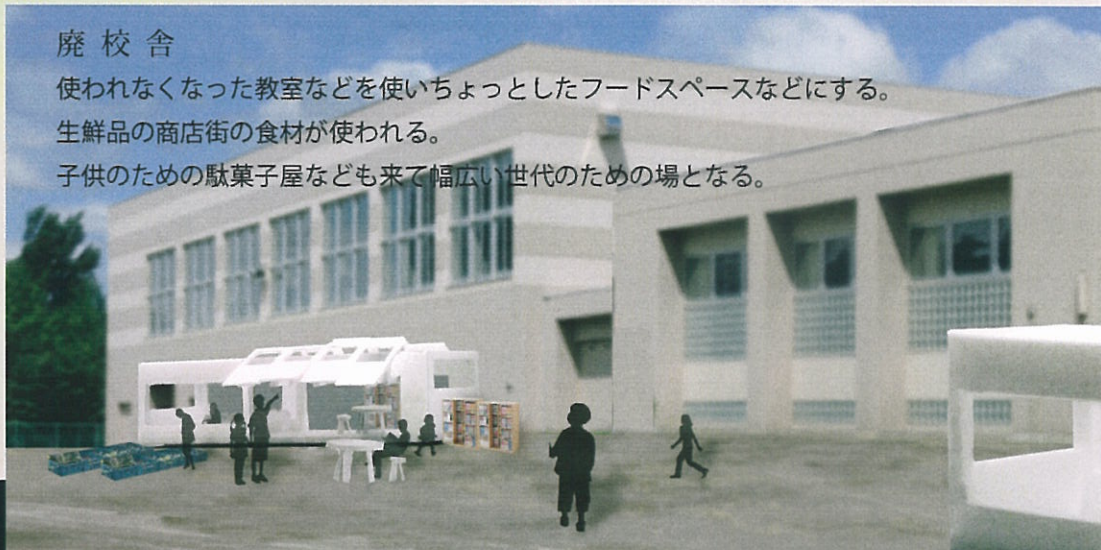
step2
それぞれの空地进行、
“商店”の停まるドックに
整備。
停留所を整備。

整備され出来た新たな道は、安全な歩行の空間となる。
冬は、ササラをつけた商店が、除雪を兼ねる。

step3
移動する商店街を整備。
停留する場所、
停留する商店の種類によって様々な
用途転換が起こる。

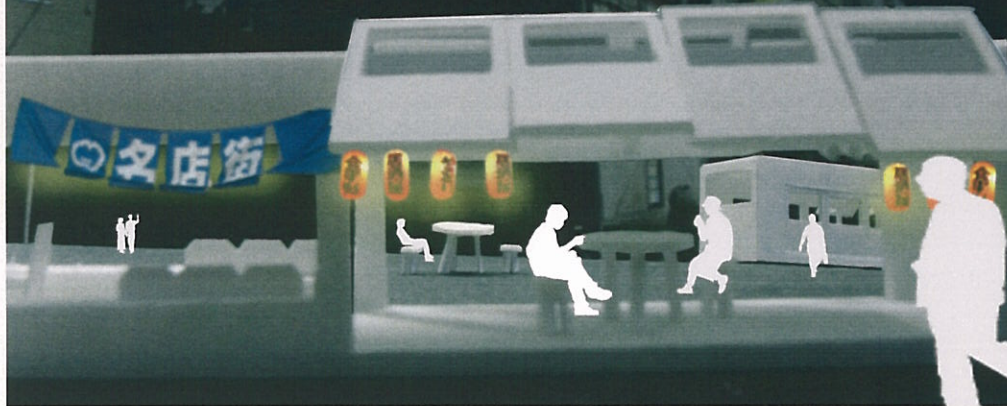
廃校舎

使われなくなった教室などを使いちょっとしたフードスペースなどにする。
生鮮品の商店街の食材が使われる。
子供のための駄菓子屋なども来て幅広い世代のための場となる。



シャッター街

“商店街”は夜な夜なシャッター街となったかつての商店街に集まる。
商店街の生鮮品を使った居酒屋、
本屋がやってくると夜のカフェは読書の空間となる。
真駒内に訪れた人々も地元の人々も集う、ちょっと大人な空間。



空き団地

団地の一室をドックに。ここには学生の勉強スペース、
保育園・託児所などの生活に密着した場がある。
そこに本屋や薬局、生鮮品などの商店がやってくる。